

2019/6/19 Vol.222 編集(金田)



### インプラント治療の現在(1)



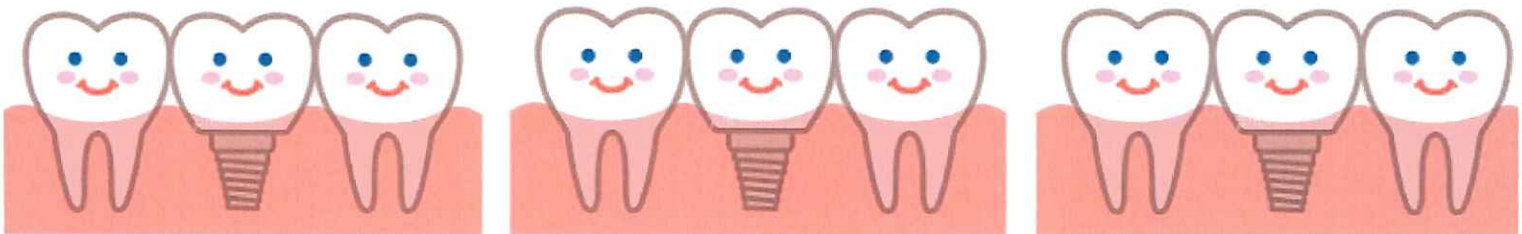
以前にもこの「かむかむ」でご紹介したことがある歯科用人工歯根（デンタルインプラント）ですが、歯を失った方々に対して現在の歯科治療で、最も自分の歯に近い痛くなく、しっかりと動かずに良く噛むことが出来る最良の治療方法は、デンタルインプラント（以下インプラントと略します）と言えるでしょう。

近代における現在のインプラント治療が確立したのが、約50年前のスウェーデンのブローネマルク先生によるチタン合金（チタニウム）による骨との結合と安定を発見したことに始まり、その後世界中でインプラントの形状デザインや表面処理の違いによる表面性状の改造や進化によって、より長期に安定して使用できるインプラントになってきている現在です。

日本国内でもインプラントが導入されてから約40年以上が過ぎてきています。その後、日進月歩のインプラント治療の世界では、約10年ごとに大きな進歩と共に応用範囲や以前は禁忌症（治療出来ない、してはならない）と言われていたものにも治療が可能となってまいりました。以前は、抜歯した場所の状況により、顎の骨が無い所にはインプラント治療は無理であったものも、顎の骨を作る（造骨治療）という治療方法を加えることで、可能になります。また、顎の骨が弱い方（骨が高齢者で柔らかい場合）には、永く持たないと言われていたのですが、インプラントの表面を特殊な加工をしたものや、特殊なデザイン形状でインプラント体の表面積を増やす工夫がされた事によって治療後も長期（10年以上の場合も）に安定して使用していただける時代になりました。そして以前は、インプラント治療の期間と言えば、歯を抜いてから抜歯窩が傷口や顎の骨が落ち着くまで3~4ヵ月待つてから行う様にと、言われ教えられてきたものも、条件によっては、何と抜歯したその場でインプラント埋入が行われる治療方法により、待たなくてよくなり、治療回数や治療期間を大幅に短縮できるという方法に段々と変化してきています。

今でも基本的な治療方法を書いてある教科書（マニュアル）的には、『抜歯後、顎骨の安定を待ち、歯科用CTなどによる診査診断の結果、周辺臓器（血管や神経などの器官）に配慮の上、危険の無いように安全に歯槽骨内に、骨質も考慮して埋入するように。』と書かれています。（つづく）

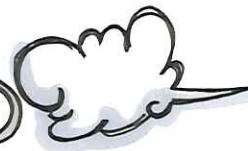
院長



夏の厄介者!!



# 蚊



担当: 金田

## 蚊は小さな殺し屋!?

世界で最も人間を殺している生き物は実は蚊なのです。世界で年間70万人以上の方が、蚊に刺されたことから感染症にかかり命を失っています。蚊が媒介する感染症として、日本では日本脳炎とデング熱・ハットの病気としてマラリア、海外ではマラリア・デング熱・ウエストナイル熱などがあります。地球温暖化で日本も亜熱帯化が進んでいるといわれています。蚊に刺されたから、かゆいだけ...では済まされない環境になっているのです。

## 血を吸うのはメスだけ

蚊は、普段は花の蜜や果物の汁などを吸っています。しかし産卵を控えたメスだけは栄養を求めて人間や動物の血を吸います。メスの蚊は自分の体重の3倍もの血を吸うことができるといわれています。蚊は血を吸う時に抗凝血作用物質を含んだ唾液を注入します。この唾液によってアレルギー反応が起こりそれがかゆみの原因となるのです。



## 蚊に刺されやすい人

体温が高い人

汗かきな人

黒い服の人

アルコールを飲んでいる人

肥満傾向にある人

## 蚊に刺されないためには...

虫よけスプレーを使う  
(ムラなくかける)

蚊とり線香や  
液体蚊とりは  
風上に置く

蚊の発生源である  
水たまりをなくす

長袖・長ズボンを着る

白色だと寄りつきにくい